



おおねじめ

昭和59年2月号

№.373

町の人口(2月1日現在)

男 4,436 人

女 4,977 人

計 9,413 人

12月1日より25人減

発行 肝属郡大根占町役場 題字町長



池田少年少女消防クラブ

「心身ともに健康で人間性豊かな子どもの育成，規律訓練を通して，生命尊重と防火思想の啓発」を目的に昭和51年4月に結成。団員は5年6年生35人。

(1月6日消防出初式で小隊訓練中)



春の全国火災予防運動

2月29日～
3月13日

サイレンとともに出動！

―新春消防出初式―

初春をかざる恒例の消防出初式が一月六日、大根占中グラウンドで開催されました。
午前九時、サイレンの吹鳴を合図に(塩屋・城ヶ崎)パイパス入口を出発。消防指導車を先頭に各分団の消防車、ラッパ隊、分団員、池田少年少女消防クラブ等の堂々とした行進が行なわ



- 日本消防協会勲章章
飯隈 章(宿利原)
- 県消防協会功績章
磯元一信(中央) 木下十三男(池田) 永吉辰夫(宿利原)
- 県消防協会功績章
岩元定春(神川) 坂下進(神川) 石川義文(中央) 前迫良光(池田)
- 県消防協会30年勤続章
飯隈 章(宿利原)
- 県消防協会20年勤続章
磯元一信(中央) 木下十三男(池田) 永吉辰夫(宿利原)
- 県知事10年勤続章
中迫博之(中央) 小吉昭弘(中央) 下園皓也

れました。
式典では団長以下180人の消防団員が来賓の多数見守る中、町長らの観閲を受け、そのあと規律正しい分列行進、小隊訓練、操法など日頃の訓練の成果を披露しました。表彰は次のとおり。
○日本消防協会功績章
福岡正男(本部)

- (神川) 赤石吉人(神川) 徳永高澄(神川) 福永四男(神川) 永田三三夫(神川) 永江修一(池田) 笹原節(池田) 中原昭(宿利原) 牧原龍男(宿利原)
- 肝属支部15年勤続章
今隈幸一(神川) 中野嵐(池田)

- 田) 菊谷好孝(宿利原) 眞竹秋良(宿利原)
- 25年勤続章の表彰
竹下ノブ子(中央) 白井和子(池田)
- 退団者表彰(15年以上)
郡勇征(中央) 神川政孝(神川) 鳥越博志(中央) 石川義文(中央)
- 5ヶ年精勤章
谷口仁他17名
- 3ヶ年精勤章
水流篤雄他17名
- 1ヶ年皆勤章

- 中央22名、神川20名、池田37名、宿利原22名
- 新入団者
中園公昭(中央) 平原末弘(神川) 徳永俊廣(神川) 赤石利幸(神川) 岩崎正(神川) 昇任者
○部長 宮内正美(中央) 水流篤雄(神川) 《班長》遊喜清武(中央) 西逸雄(中央) 今熊悦郎(神川)

事故防止をねがって あめ玉作戦！

～交通安全母の会～



年末の全国交通安全運動の一環として、さる十二月二十六日国道269号線の鳥浜海岸で交通安全母の会主催(会長大吉スミ)は大根占警察署と町役場職員の協力をえて、あめ玉配布作戦を展開いたしました。
年末ともなると県内外の帰省車が多くなり、事故も多発しています。そこで、会員の方がチラシとあめ玉をすぐ配布、くあめ玉を食べながら、運転に注意して下さいと訴え、と、運転者もこの時ばかりはニコリとあめ玉を受けとり「ありがとう」とお礼をいいながら町の方へ流れていった。

連けい強化自らの研鑽を

～第9回町畜産振興大会～



町の第9回畜産振興大会が一月二十四日、畜産農家や関係者約三百五十人を集め、農村勤労福祉センターで開催されました。
まず、川邊町長が「現在の畜産農家は農産物自由化や輸入枠拡大など厳しい現状ですが、肝属南部開発事業推進や畜産基地建設事業に対する認識を深め、畜産振興に意欲的に取り組んでほしい。」とあいさつ
また、畜産振興計画の説明で肉用牛については、自給飼料増

産の飼料畑の基盤整備を図る。毎月空胎検査を実施し、優良牛造成に努める。豚については、養豚農家の衛生管理の徹底と肉質の向上をはかる優良種豚の導入。ブローラーにおいては、飼育技術の向上や飼育環境整備と管理の徹底等が示されました。続いて、段中野畜産グループの中野康男さんと養豚グループの馬込義信さんがそれぞれ体験を発表。そのあと、品評会入賞等の表彰が行なわれました。

午後からは県畜産会常務理事佐久間五朗先生の「畜産の現状と今後の心がまえ」と題した講演があり、そのあと、十二項目のスローガンが採択されました。表彰関係は次のとおり

- グランドチャンピオン表彰
春季 永山ウキ子(落河)
- 秋季 岩元 春己(神川中原)
- 町長賞
春季 岩元 春己(神川中原)
- 秋季 岩元 春己(神川中原)
- なんぐう農協長賞
春季 小川 功(落河)
- 秋季 秋元 努(神川中原)
- 総合優勝 宿利原校区90・0
○子牛せり市最高売上者(めす)
1位 中野 良夫(宿利原)
(七五四〇〇〇円)
- 子牛せり市最高売上者(去勢)
1位 大園 加(川北)
(三二五〇〇〇円)
- ブローラーの部
1位 笹原 己邦(松坂)
- 子牛の部
1位 有村 利秋(神川上)
- 高齢者の部(65才以上)
大久保幸造(大久保) 他35人
- 母子家庭の部
黒瀬ヒロ子(才原) 他9人
- 功労者
故前野 勇(川北)
- 小園 又雄(神川上)

水田利用再編

第三期対策

水田利用再編対策は、昭和五十三年度からおおね十年間の事業として実施されているところであり、第一期、第二期を経て、昭和五十九年度からは新たに第三期対策へ移行することになりました。第三期対策のあらましは、①本町への転作目標面積配分九十五ヘクタール②うち他用途利用米生産予定数量一万二千二四〇玄米キログラム(予定面積三、七ヘクタール)③転作奨励金(別表)は、基本金が

本町分の第三期対策奨励補助金(見込) (10a当り)

区分	特定作物 (大豆、リン、飼料、麦)	一般作物 (小麦、ジャガイモ、甘藷、インゲン、キヌササ等)		高付生、飼料 (青刈稲等)	
		基本額	第一種加算	基本額	第一種加算
早 期	(45000)	(25000)	(30000)	(25000)	(30000)
	32000	17000	22000	17000	22000
普通 期	(44000)	(24000)	(29000)	(24000)	(29000)
	36000	16000	21000	16000	21000
二 期	(36000)	(16000)	(21000)	(16000)	(21000)
	28000	8000	13000	8000	13000
早期・二期	(58000)	(38000)	(43000)	(38000)	(43000)
	42000	22000	27000	22000	27000

()の金額は第二期対策中の金額
第一種加算と第二種加算と重複交付されません。

十アール当り一律八千円引き下げ④奨励金の加算制度は転作定着化推進加算を設ける。⑤他用途利用米の政府助成は一トン当り七万円……などとなっています。
奨励金の加算制度は、新たに「転作定着化推進加算」が設けられ、第一種加算は、団地化加算と集団的な畑転換に対して、十アール当り二万円(ただし一般作物は一万五千元)。第二種加算は、都道府県知事が定めた要件にあった転作に十アール当り一万円が加算されます。
また、飼料用青刈り稲は現行の特定作物から一般作物に格下げされます。
他用途利用米は、みそ、せんべい等加工材料用米穀とし、主食用米穀の管理に支障を及ぼすことのないよう食糧制度の枠内に位置づけ第三期対策の一環として導入されました。価格については、原材料用の採算価格を基準にし、これを一俵当り(六〇キログラム)で計画して見ます。政府助成金を含め生産者手取額が一俵約一万円となります。(主食用の米一俵は一万八千円)
検査基準については、うるち米とし、主食用に準じて行なわれ一・三等が対象とされます。

僕の凧があがった

～町親子凧あげ大会～



親子で冬休み中に作成した凧を持ちよった凧上げ大会が一月八日、冬休みの最後をかざる日曜日の午後から二百人の親子を集めて、町運動公園で開催されました。

この日は凧あげに最高の天気。この凧あげ大会は子どもはもちろん、親のほうも力が入り親で、白井子連会長の合図により一〇八つの凧が上空にぐんぐん舞い上がりました。

この行事は例年、町子連と町教育委員会の共催で開かれ、今回で十回目。まず、凧の形やデザイン、審査が行なわれ、紙やビニール製の四角凧、三角凧、連凧など色とりどり、とくに厚ケ瀬子ども会、才原子ども会、宿利原子ども会が作った、大凧が目玉をひきました。

枯がらしをついて、宿利原校区の第9回校区一周駅伝大会が一月七日、7区間、6・5kmのコースで盛大に行なわれました。この大会は小中学校PTA主催で一日一汗運動や山坂達者の一環として、親と子の親睦と体力向上を目的として行なわれ、今回で9回目。出場数は小中学校児童生徒や父母をふくめた11チームが参加。またオーブン参加として消防団など3チーム合計14チームが健闘を競いました。午後一時三十分、ピストルの

1位 宿利原A 24分31秒
2位 才原A 24分35秒
3位 宿利原B 25分42秒

24分31秒

宿利原Aが3年連続優勝！

第9回宿利原校区一周駅伝

子どもともいっしょうけんめい。あがった！あがった！に主催者もうれしそうでした。入賞者は次のとおり

作成の部
最優秀賞 厚ケ瀬子ども会
福岡一樹 福岡忠司
野元容子
優秀賞 厚ケ瀬宗 前川えみ
有村加奈子 下内崇
有村佳子
才原子ども会
特別賞 原田隆男 中野和年
池水千博 有村公伸

小園智美 飯屋則人
飛距離の部
最優秀賞 六反田等 池水国博
安水峯晴 厚ケ瀬子
優秀賞 宿利原繁人 志垣亮
山元昭二 安水勉
黒瀬健一 志垣一彦
厚ケ瀬子ども会
特別賞 中野隼人 長瀬大輔
安水義寿 中野和年
橋元孝博 下窪和洋
橋山昭一 永山剛
城下友子 馬場康洋
馬場和洋

働きながら学ぶ人のための高校

県立通信制

1. 入学資格
(一) 中学校卒業
(二) 高校中退、旧制中学校
青年学校の卒業修了者
2. 学科
(一) 普通科
(二) 衛生看護課
3. 募集期間
昭和59年3月21日から
昭和59年4月14日まで
4. 願書提出及び問い合わせ先
〒890 鹿児島市下伊敷町44-4
県立鹿児島西高等学校
通信制入学係
電話0992-291374

21世紀にはばたけ！

181人が大人の仲間入り

権利と責任をもつ成人に

昭和59年成人式

初春をかざる一月十五日の成人の日より一足早い町主催の成人式が一月三日、農村勤労福祉センターで約百八十一人の新人を迎えて行なわれました。

式典では、川邊町長が「今日から大人の仲間入りをするわけですが、現在の若者の中には権利だけを主張して、義務や責任に欠ける者が多いので、みなさんはそのようなことがないように、自覚して、21世紀にむかって、青春を謳歌してほしい」と



20歳になって

今：振り返ると

瀬戸山 落司 毅



今、振り返るととても短い20年であった。しかし、この短い20年間にたくさんの思い出を残して来た。保育園の時

の「おゆうぎ会」で踊ったこと、小学校の時、町内記録大会で4年生100メートル走で一位だった事、中学校三年の時、体育祭で選手宣誓をした事、とくに高校時代は学生の自分である学業の方はパツと仕上がったが、文化祭、部活動、生徒会などを通じて、充実した生活を送る事ができた。そして今、青年団活動に参加している。こうして、色々なことを経験する事ができたの

あいさつ。続いて、町議会議長をはじめ青年団、婦人会長が励ましの言葉を送りました。

また、若者のついでには、私の主張と題して、新成人の落司毅さん(瀬戸山)と迫なるみさん(山ノ口)さんが意見発表を行い、またリクレーションでは「若者は旅をつづける」というフォークダンスを照れながら踊る新成人もいました。そのあと、全体写真と校区別の写真を写したのち今度は同窓会場にそれぞれ散っていきました。



も、すべて両親のおかげである。20年間愛情を持って育ててくれた両親のおかげである。「ずんねなかった」自分を一六五センチしかないが、大きく育ててくれた。大変な難儀苦労だったろうと思います。

こんな両親に感謝するとともに、これからは意見の食い違いもあると思うが、互いに協力しながら一緒に生活していきたい。と成人式を迎えてこのように思った。

父ちゃん、母ちゃんこれからもよろしく。

住民の無病息災を祈る！

～河上神社御神幸祭～



河上神社の正月行事、御神幸祭が一月三日行なわれました。この日、午前九時三十分から拜殿で神事があつたあと、福岡国夫宮司を先頭に御神体とサカシバやワラを持った神官や子ども達がつづき、町境(瀬戸山・塩屋・山ノ口)の三ヶ所と海岸(神之浜海岸)の二ヶ所約二〇キロを次々とまわりながら今年一年の住民の無病息災を祈りました。この行事は河上神社に四百年

庁舎に絵画を寄贈！

—大橋在住の小木麦さん—



町制50周年と庁舎落成を記念して、本町在住の画家、小木麦さん(74歳)が50号の絵画を寄贈。その感謝状贈呈式が十二月二十八日、行政ご用納めの日に行なわれました。

小木さんは現在、新芸術協会評議員、鹿児島県美術協会会員、なかよし美術会の主宰、また丸屋や加根又ギャラリーで数々の個展を開かれて活躍されています。住所とアトリエは大橋上。最近作として「赤い桜島」50号「桜島新雪」80号を発表、そして現在「大隅の美」を描いていらっしゃいます。その一つを本町に寄贈されました。この絵は町港団地から港湾を



描いた風景画の油絵です。これは庁舎入口フロント税務課側の壁に飾られています。今後の小木さんの活躍を期待いたします。

造林時期です

苗木は早目に

—森林組合—

いよいよ杉、桧、くぬぎ等の造林時期が迫ってきました。造林希望者は早目に苗木の注文を森林組合に申し込んで下さい。今年は、特にくぬぎの苗木は不足がみで、需要に応じきれず御迷惑をおかけする人

もあるかも知れません。又、三月頃までが除間伐の最適期です。除間伐を実行しない山は将来人並にお金はとれませんが、新植造林並に植栽後二十五年までの山の除間伐をされた方は、補助金がもらえます。希望者は、字、地番、樹種反別、苗木本数を早目に森林組合へ。



昭和五十八年度分の所得税の確定申告は、二月十六日から受付が始まります。この申告の期限は三月十五日ですが、期間間近になりますと税務署が大変混雑し、落ち着いて相談できなかったり、長時間お待ちいただくようなことになりかねません。申告はできるだけ早めに行なうようにしてください。また、期間中に次のような便

住民税の相談は：

- 宣も図っていますのでご利用ください。
- 給与税納税相談
根占町民センターで
2月15日 水曜日
- 申告所得税納税相談
大根占町役場会議室で
2月28日から29日まで
- 税理士による無料相談
鹿屋税務署二階事務室
3月1日から15日まで

昭和五十九年度の住民税の納税相談は、二月二十日から三月十二日まで各地の公民館や町役場会議室において行なわれます。

行政に関する相談は
吉元美水さんへ

百枝重孝さんの後任として、鳥井戸一区の吉元美水さん(63

歳)が行政相談委員として委嘱されました。行政相談委員は国から委嘱された者で、主として国の行政に対する苦情、要望の受付相談、県市町村の行政についても、一部制約はありますが相談等に応ずることが出来ます。また、電話や手紙、はがき等



でも相談することが出来ます。なお、相談等の連絡先は次の通りです。

大根占町馬場九二

吉元 美水

TEL 二一〇三九〇

右のほかに老人福祉センター(旧役場裏)で毎週心配ごと相談が開設されていますので御利用下さい。

相談日：毎週木曜日午前九時から正午まで。
場所：大根占町老人福祉センター。

長い間ごくろうさま

民生委員・児童委員として

民生委員・児童委員として町民から親われてきた山ノ口の岩元親さん(71歳)と落河の上玉利静雄さん(63歳)が十一月三十日で勇退されることになりました。



親さん 岩元 上玉利静雄さん

その感謝状贈呈式が十二月六日、町役場庁議室で行なわれました。岩元さんは昭和三十四年十二月一日から今日まで二十四年間上玉利さんは昭和三十九年一月から今日まで十九年十一月の長期にわたり、町民と町福祉行政の間に立ち、いろいろと助言や指導というボランティア精

神で務めてこられました。ほんとうにごくろうさまでした。なお岩元さんの後任に寺前の大田中増男さん、上玉利さんの後任に落河の小川一志さんが任名されました。

共同募金

歳末たすけあい運動募金

ご協力ありがとうございました

十月一日から十二月末日まで展開した共同募金・歳末たすけあい募金は町民の皆さん方のご理解、ご協力により、百四十四万五千九百四十九円の実績を納めました。この募金の一部は町内の寝たきりの方や気の毒な方々に明るい正月を迎えてもらうよう見舞金として送られました。

共同募金
実績 — 1,119,935 円
歳末たすけあい募金
実績 — 326,014 円

24年間
19年11ヶ月

戸籍に関する情報は ホームページ上では 掲載していません

各種の善意

町社協へ

社会福祉事業に役立ててくだ
さいと次の方々から、香典返し
にかえ寄付がありました。厚く
お礼申し上げます、故人のごめい福
を祈ります。

氏名	(故人)	部落名
深水 フミ	清則	栄町
船倉 進	勝彦	瀬戸山
永吉キミ子	勇	命苦
大山 フミ	ユキ	栄町
野間 哲美	ヲトミツ	皆倉
水流 満	勇吉	神川中
上園 良武	信子	鳥浜
酒勾 利之	ツヨ	皆倉
假屋 文	實	神川上
永田 和吉	吉蔵	木原
竹之内国男	初菊	壱崎
岩下 次男	文子	山之口
河野 収	ムメ	神二区
安楽タカエ	スガ	神一区
堂地 久	三郎	山之口
福岡イチ子	操	塩屋
落司 量男	ヨシエ	瀬戸山
畑添 正光	ミエ	山之口